図書だより

私の推薦

佐賀のがばいばあちゃん

島田洋七　著

中尾ヨシコ（なかお）さん
（旭　伊坂）

ある夕ご飯の席のことだった。「ばあちゃん、この2、3日ご飯ばっかりでおかずがないね」俺がそう言うとばあちゃんは「アハハハハ・・・」と笑いながら「明日はご飯もないよ」と答えた。俺とばあちゃんは、顔を見合わせるとまた大笑いした。40年も前の話です。こんなやりとりが冒頭にあります。

原爆症で父親を失った少年が、小学2年のとき、広島で仕事をする母親の都合により、母方のばあちゃんに預けられました。

佐賀のばあちゃんは戦時中に夫を亡くし、以来、厳しい戦後を生き抜いて来た人です。

物語は筋金入りの貧乏という暮らしぶりの中で、周りの人たちを巻き込んで繰り広げられます。

毎年、運動会になると腹痛になり、弁当を取り替えてくれた担任教師のやさしさや、修学旅行に行けない友達のためにアルバイトをしたことなど、涙と笑いの中で「本当のやさしさ、強さとは・・・」を考えさせられます。

皆さんも、ぜひ、ご一読ください。

耳より情報

としょかんまつり

11月3日（金・文化の日）

「聞かせてね むかしむかしのおはなし」

11月3日（金・文化の日）には、「としょかんまつり」を開催します。

雑誌の無料配布や、お楽しみ抽選券の配布、絵手紙の展示などがあります。ボランティアによるお話会など、楽しい催しもたくさん用意しています。

3日の文化の日は、図書館で本との出会いを楽しみませんか？皆さんの来館待ってます。

※内容などの詳細は、10月15日号の広報きくちでお知らせします。（泗水図書館）

絵本ミニ知識

ケイト・グリーナウェイ賞とは・・・。

イギリスで出版された絵本の中から、その年もっとも優れた作品の画家に対して、年に1回贈られる賞です。

1956年、英国図書館協会によって創設され、賞の名前は、今でも世界中で愛されている挿絵画家のケイト・グリーナウェイ（1841～1901年）にちなんでいます。

日本人では、安野光雅さんが「ABCの本 - へそまがりのアルファベット」で特別賞を受賞しています。

（中央公民館図書室）

問い合わせ先

中央公民館図書室　☎（25）1672
七城公民館図書室　☎（25）1580
旭志公民館図書室　☎（37）3111　内線303
泗水図書館　☎（38）6866

10月の予定

		中央公民館図書室	七城公民館図書室	旭志公民館図書室	泗水図書館
1	日	閉室日	閉室日	閉室日	
2	月				休館日
3	火				
4	水				
5	木				
6	金				
7	土			閉室日	
8	日	閉室日	閉室日	閉室日	
9	月	閉室日	閉室日	閉室日	休館日
10	火				
11	水				
12	木				
13	金				
14	土	きくちおはなしのもり おはなし会 10:30～		閉室日	おはなしかい 11:00～
15	日	閉室日	閉室日	閉室日	お楽しみ会 14:00～
16	月				休館日
17	火				
18	水				
19	木				
20	金				
21	土			閉室日	古典を楽しむ会 14:00～
22	日	閉室日	閉室日	閉室日	
23	月				休館日
24	火				
25	水				
26	木				
27	金				
28	土	きくちおはなしのもり おはなし会 10:30～		閉室日	おはなしかい 11:00～
29	日	閉室日	閉室日	閉室日	
30	月				休館日
31	火				休館日

新着図書情報

泗水図書館

八月の路上に捨てる　伊藤たかみ　著

暑い夏の一日。僕は30歳の誕生日を目前に離婚しようとしていた。愛していながらなぜずれてしまったのか。現代の若者の生活を覆う社会のひずみに目を向けながら、その生態を明るく軽やかに描く表題作のほか1篇収録。（芥川賞「第135回」）

ヘヴンリー・ブルー　「天使の卵」アナザーストーリー　村山由佳　著

「天使の卵」では、報われなかった歩太への夏姫の恋。思いがけず姉・春妃に向けた恨みの言葉。狂おしい熱情と悔恨・・・。春妃の妹・夏姫のモノローグでつづるもうひとつの物語。

風の墓碑銘　乃南アサ　著

解体工事現場から白骨死体が3つ。そして徘徊老人の撲殺事件。貴子の脳裏で、ある「笑顔」が2つの難事件を結びつけた。白骨たちの悲しみが貴子を「信じがたい」解決へと運ぶ・・・。音道貴子と滝沢保の名コンビ復活！

名もなき毒　宮部みゆき　著

あらゆる場所に「毒」は潜む。財閥企業で社内報を編集する杉村三郎が、私立探偵・北見を訪れて出会ったのは、連続無差別毒殺事件で祖父を亡くしたという女子高生だった。現代ミステリー。

君がくれたもの　chaco（ちゃこ）　著

ケータイ小説「天使がくれたもの」シリーズの完結編。カグこと香久山聖の視点で振り返ったもの。切なくて、苦しいけれど明らかになる「カグ」の真実。相手の気持ちを知って、初めて見えてくるものもある・・・。

町医北村宗哲　佐藤雅美　著

江戸・芝神明前の医院はいつも大繁盛。腕利きであるうえに義に厚い宗哲だが、訳あって人を斬り、逃亡していた過去を持つ。そのためか、ついつい厄介な頼み事まで引き受けてしまうはめに・・・。人情とペーソス溢れる連作時代小説。

ビースト　アリー・ケネン　著

17歳の少年スティーヴンの秘密。それは、貯水池の檻で飼っている恐ろしい「ビースト」。もしもあいつが逃げ出して人間を襲ったら・・・。この手であいつを殺すしかない！危険な冒険と葛藤、成長をリアルに描いた青春小説。

われ巣鴨に出頭せず　近衛文麿と天皇　工藤美代子　著

敢然と毒をあおぎ巣鴨行きを拒絶した「弱い人」近衛文麿。「米国の法廷」で裁かれることを拒絶した華族筆頭の矜持が、命を捨てて守ったものとは・・・。新発見の外交文書などから、葬り去られた昭和史の棺の重い蓋がいま開かれる。

美しい国へ　安倍晋三　著

「日本」という国のかたちが変わろうとしている。保守の姿、対米外交、アジア諸国との関係、社会保障の将来、教育の再生、真のナショナリズムのあり方・・・。その指針を明示する必読の1冊。

オール1の落ちこぼれ、教師になる　宮本延春　著

中学卒業の学力は漢字は名前しか書けず、数学は九九の2の段まで。英語の単語はBOOKしか知らない落ちこぼれが編み出した勉強法とは？奇跡の教師「オール1先生」が、勉強法の極意と、夢を叶えるまでの道のりを紹介する。

おんちゃんは車イス司書　梅田俊作　作・絵

ぼくらの町の図書館に、日本で初めての車イスの司書さんがやってきた。何でも一生懸命なおんちゃんを見てるうちに、ぼくも何かしたくなってきて・・・。自分を好きになり、ほかの人を大切に思うことの大切さを訴える絵本。

まもる！防犯絵本　せべまさゆき　絵、国崎信江　監修

誘拐･連れ去り･いたずら。小さな子どもにとって危険な要素や、その対処法をシチュエーションごとにわかりやすく説明する絵本。自分の身を守る方法を、しかけやシールを使って子どもと一緒に考えましょう。

しろくまさんはどこ？　ソフィー・クニフケ　絵、ジャン・アレッサンドリーニ　文

まっしろのしろくまさんは、雪の上にいるとぜんぜんみつからない。でも、もしも七色の虹の前を歩いていたら・・・。リズミカルな文章と、フランス生まれのカラフルな絵が楽しい絵本。小さな子どもへの読み聞かせにもぴったり。

エンデュミオン・スプリング　マシュー・スケルトン　著

過去、現在、未来、全ての知識が詰まった本「最後の書」をめぐり、オックスフォードの図書館で始まる冒険。主人公ブレークは追跡者の影に怯えながらも、本の謎を解明していく。果たしてその謎とは。

「無言館」にいらっしゃい　窪島誠一郎　著

何も語らないけど、たくさんの言葉があふれている。長野県上田市にある「無言館」は､そんな美術館です。油絵､水彩画､デッサンなど戦没画学生たちが描き、残した絵が、静かに、生き生きと私たちの心に迫ってきます。

中央公民館図書室

どうにかしてよ イイイヨオオオ！　リディア・モンクス　さく

イイイヨオオオ！～イイイヨオオオ！～うちはロバのディッキィ・ドンキィがいるから目覚まし時計がいらないの。ご近所もいらないけれど、うるさくてみんなで文句を言いに来た。それを聞いて、迷惑がられていたと知った心優しいディッキィは・・・。

センセイの書斎　内澤旬子　文・イラストレーション

翻訳家､作家､評論家､そして建築家など多種多様な「センセイ」の書斎を正々堂々と覗き見ることが出来る一冊。自らの分類法によって見事に整理整頓された書斎もあれば、移動する書斎まであり、まさに十人十色の書斎を垣間見ることができる。

押入れのちよ　荻原　浩　著

元サラリーマンで無職の男、恵一が移り住んだ格安物件には、愛くるしくも悲しい過去を持つ明治生まれの13歳の女の子「ちよ」が付いていた。奇妙な同居の中で変っていく様を描いた。他にも、笑えるのに切なく悲しい8編を収録した読み応えのある短編集。

師弟 - ここに志あり -　童門冬二　著

吉田松陰と高杉晋作、緒方洪庵と福沢諭吉、島津斉彬と西郷隆盛、など立場を超えて結ばれた17組の「師弟」。芭蕉と曾良では〝おくのほそ道〟の道中、師に嫌悪感を持った弟子が、のちに師の偉大さを知ることとなり己を恥じる。それぞれの運命的な「一期一会」に出会える1冊。

ウィンクルさんとかもめ

エリザベス･ローズ　文、ジェラルド･ローズ　絵

ウィンクルさんは、友だちもなく、魚もとれず、話し相手といえばいつもえさをあげているかもめばかりという漁師。ある日、魚が海から姿を消して、港町は大弱り。あきらめず毎日、海に出ていたウィンクルさんは奇跡を起こす・・・。素朴で美しい絵も魅力の絵本。1961年ケイト・グリーナウェイ賞受賞作。